

## < 中学校国語科資料 >

# 国語科 学習指導案

長期研修 研修員 竹淵 深山

### 目指す言語能力

文章の論理的な展開をとらえ、筆者のものの見方や考え方を読み取り、人間・社会・自然などに関する自分の意見をもつ能力【C読むこと(イ)(エ)】

### 題材名

筆者の主張をとらえ、自分なりの意見をもとう

### 考察

#### 1 生徒の実態(省略)

#### 2 指導の内容と教材のかかわり

##### (1) 教材名 モアイは語る - 地球の未来 (光村図書・中学校2年)

##### (2) 教材観

本教材は、イースター島の事例を基に、「人類が生き延びるためには、今あるこの有限の資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を考えなければならない。」ということを筆者が主張している説明的な文章(論説文)である。

筆者は、環境考古学の方法を駆使し、古代の気候変動のデータとその的確な分析をもとに、「モアイ像の語る文明崩壊のなぞ」というかたちで、自然環境と文明興亡の興味深い関係を解き明かしている。特に、文明の発達に森や川、海などの自然を破壊し、地球環境を悪化させている今、イースター島の古代民族の象徴であるモアイ像が、森を消滅させ、文明を滅ぼした象徴でもあったという発見と論理は衝撃的であり、それが人類・地球の未来への警鐘であるとする筆者の主張には説得力がある。

この文章の魅力は、専門の環境考古学の考察を生かしたモアイ像のなぞの解明、宇宙空間で孤立した地球と絶海の孤島イースター島の環境とを対比させた筆者の個性的な見解、こうした見解を地球環境・文明崩壊の危機に対する警鐘というメッセージに展開している点にある。

また、この文章は、「モアイは語る 地球の未来」という題名から、「モアイ」がどんな「地球の未来」を語っているのか書いてある内容を予想させ、その予想を確認させるために、本文中の「地球の未来」を考えている文(「モアイ以後の未来」を考えるのに参考になるところ)を探させながら読ませていくことにより、初読段階での目的意識をもたせることが可能な文章であると考えられる。

さらに、本文中の「地球の未来」を考えている文の中から、「筆者がこの文章を通じて、読者に考えてほしいこと」や、「筆者がこの文章を通じて主張したいこと」を探させることで、文章全体を三つのまとまりに分けることができるため、この文章は、序論(問題提起)・本論(具体的な事例)・結論(筆者の主張)という尾括弧型の文章構成をしっかりとおさえることが比較的容易な文章であると言える。

そしてこの題材では、文章構成を確実におさえ、「問題提起文」や「結論」を見付け出し、そこから「読みの課題」を作り、それを使って本論の論理の展開を読み取っていくという、説明的な文章(論説文)の読み進め方を構想している。具体的には、【「わたしたちの住む地球の未来を考えるうえで、とても大きな問題」とあるが、どんな「問題点」があるのか。(「わたしたちは、今ある有限の資源をできるだけ効率よく長期にわたって利用する方策を考えなければならない。」と筆者が言っている根拠は、どんなことか。)】ということをも「読みの課題」(「問題提起と結論部分のつながりを読み取っていくための課題」とする。そして、その「読みの課題」を基に、「問題提起」の解答や、「筆者の主張」の根拠について考えさせていくことで、生徒に目的意識や方法意識・内容意識をもたせていきたいと考える。

またここでは、説明的な文章の読解における「思考力」を高めるための授業モデル案を提案したいと考える。具体的には、「思考力」を高める指導方法の工夫として、「生徒の思考を筆者の思考の流れに沿わせることにより、生徒に筆者の論理の展開を読み取らせ、読み取ったことを基に、自分の考えを表現する授業展開」を考えている。

具体的には、「読みの課題」に沿ったキーセンテンスを選択させ、そのキーセンテンス間のつながりを考えさせる学習活動や、生徒自身に自分なりの考えをまとめるための「観点」を選択させ、自分の意見の根拠になる論理の展開に活用できる情報(「イースター島」と「現在の地球」とを比較した記述や、サブテキストや教科書にある事例の記述など)を選択させて、その配列を考えさせる学習活動を構想している。そのことによ

て、生徒の読解力を伸ばすことが可能となり、生徒は論理構成や表現技法を工夫しながら、自ら主張（解決策）などを効果的に言語化する力が育ってくると考え、本題材を設定した。

## 学習指導の方針

### 〔全過程にかかわること〕

題材全体を通じて、生徒一人一人が文章の論理的な展開をとらえるとともに筆者のものの見方や考え方を読み取り、自分の意見をもつことができるよう支援していく。また、作品から読み取ったことを基に、「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめていくことを通して、生徒一人一人が「言語を手がかりとしながら論理的に思考する力」を高めていくことができるよう支援していく。

自力解決の時間（個別の書き込みの時間）を十分に確保し、じっくりと考えさせていくとともに、自分なりの考えをしっかりとって友達との意見交流に参加できるようにする。

友達との意見交流では、生徒を少人数（3～4人）のグループに分け、読み取ったことやそれに対する自分の考えを説明し合わせることで、新しい気付きや読解と思考の深まりが生まれるようにする。

友達との意見交流の後に修正を加える時間を確保することで、友達の意見を参考に自分の考えを振り返って書き直させ、自分の考えをよりよいものにしていくとともに、読み取ったことやそれに対する自分なりの考えをさらに深めさせ、生徒一人一人の課題を解決できるようにしていく。

### 〔つかむ過程にかかわること〕

<つかむ過程>では、思考力の要素「【A】言語情報への主体的な働きかけ」を踏まえて、結論を見通し、読みの課題をつかむ学習活動を行うこととする。

教材の導入にあたっては、「モアイは語る 地球の未来」という題名から、「モアイ」がどんな「地球の未来」を語っているのか書いてある内容を予想させ、その予想を確認させるために、本文中の「地球の未来」を考えている文（「モアイ以後の未来」を考えるのに参考になるところ）を探させながら読ませていくことで、初読段階での目的意識をもたせていく。

本文中の「地球の未来」を考えている文の中から、「筆者がこの文章を通じて読者に考えてほしいこと」や、「筆者がこの文章を通じて主張したいこと」を探させることで、文章全体を序論（問題提起）・本論（具体的な事例）・結論（筆者の主張）の三つのまとまりに分けさせる。

「序論」から考えさせた「筆者がこの文章を通じて読者に考えてほしいこと」と、「結論」から考えさせた「筆者がこの文章を通じて主張したいこと」を合わせて、「読みの課題」（「問題提起と結論部分のつながりを読み取っていくための課題」）を作っていくことで、目的意識や方法意識・内容意識をもたせていく。

【「わたしたちの住む地球の未来を考えるうえで、とても大きな問題」とあるが、どんな「問題点」があるのか。（「わたしたちは、今ある有限の資源をできるだけ効率よく長期間にわたって利用する方策を考えなければならぬ。」と筆者が言っている根拠は、どんなことか。）】ということを「読みの課題」とさせる。

意見交流の場面では、以下のような明確な観点を与えていく。

この文章を通じて、筆者が読者に考えてほしいことはどんなことか。

この文章を通じて、筆者が読者に主張したいことはどんなことか。

「読みの課題」は適切かどうか。

### 〔深める過程にかかわること〕

<深める過程>では、思考力の要素「【B】言語情報の正確な把握」と「【C】言語情報と生活経験との関連付け」と「【D】既存の知識や体験に基づく言語情報の評価」を踏まえて、「読みの課題」に基づき筆者の論旨を正確に読み取るとともに、その論旨に対する自らの考えを明らかにする学習活動を行うこととする。

「読みの課題」（「問題提起と結論部分のつながりを読み取っていくための課題」）を基に、「問題提起」の解答や「筆者の主張」の根拠について考えさせていく。具体的には、ワークシートの表に、当時の「イースター島」の状況と「現在の地球」の状況とを比較して記入させることにより、「読みの課題」についての自分なりの考えを整理させていく。

「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめるための観点を選ばせ、自分で選んだ観点到合った「問題提起」に対する解答や「筆者の主張」に対する根拠を考えさせる。具体的には、「イースター島」と「現在の地球」とを比較した表の中から、自分で選んだ観点到合った「イースター島」に関する記述と、それに対応する「現在の地球」の記述を見つけさせ、それらを比較して記述させることにより、「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめるための資料の一つにさせる。

「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめるための観点到合った事例を、教科書（国語）の記述に加えて地理の教科書や資料集の記述から探させるとともに、その観点到に対する自分なりの主張（解決策）についても考えさせる。また、「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめるための文章構成を考えさせることにより、それらを「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめるための資料の一つにさせる。

意見交流の場面では、以下のような明確な観点を与えていく。

「イースター島」と「現在の地球」とを比較した表について

- ・ 国語の教科書（1・3段落）からの記述、サブテキスト（地理の教科書や資料集）からの記述、自分の生活経験からの記述など、どこから引用した記述なのか、そのページ数まで明記してあるかどうか。
  - ・ 「イースター島」に関する記述と、「現在の地球」に関する記述とが適切に対応しているかどうか。
  - ・ 自分の考えに付け加えたいところ（賛成できるところ）はどこか。
  - ・ 「イースター島」と「現在の地球」とを比較した記述について
  - ・ 比較した記述が、選んだ観点と合っているかどうか。
  - ・ 「イースター島」に関する記述と、「現在の地球」に関する記述とが適切に対応しているかどうか。
  - ・ 友達の書いた文章で、意味の通じないところはないか。
  - ・ 自分の考えに付け加えたいところ（賛成できるところ）はどこか。
- 自分で選んだ観点到合った事例について
- ・ 友達の事例が、選んだ観点と合っているかどうか。
  - ・ 他にもっとよい事例はないか。
- 自分なりの主張、自分で選んだ観点に対する解決策について
- ・ 友達の感想や主張・解決策が、選んだ観点と合っているかどうか。
  - ・ 友達の書いた文章で、意味の通じないところはないか。
  - ・ 自分の考えに付け加えたいところ（賛成できるところ）はどこか。

### 〔まとめる過程にかかわること〕

<まとめる過程>では、思考力の要素「【E】新たな思考の生み出しと言語化」を踏まえて、全体の要旨をとらえ、「読みの課題」について解決を図ることで筆者の論旨の読み取りと筆者の考え方に対する理解と考えを深める学習活動を行うこととする。

作品から読み取ったことを基に自分の見方・考え方を広げさせ、〔比較・観点、事例、主張（解決策）〕という文章構成例を基にしたり、自分なりに文章構成を工夫したりして、「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめられるようにしていく。

「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめるにあたって、以下の項目を記述させる。

- 「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめるための観点的記述
- 自分で選んだ観点到合った「イースター島」と「現在の地球」とを比較した記述
- 自分で選んだ観点到合ったサブテキストや教科書にある事例の記述
- 自分で選んだ観点对する主張（解決策）についての記述
- その他

意見交流の場面では、書き上がった文章を回し読みさせ、以下の観点をコメントを書かせることで意見交換させる。

上記の ~ ( ) の項目が入っているかどうか。

上記の ~ ( ) の内容が適切かどうか。

自分の考えに付け加えたいところ（賛成できるところ）はどこか。

意見交流の後に、意見交換したことを振り返らせ、「地球の未来」についての自分なりの考えをまとめた文章の書き直しをさせる。さらに、作品と比較させることで、読み取ったことやそれに対する自分なりの考えを深めさせる。

### 指導目標

「モアイは語る 地球の未来」を読み、説明的な文章の論理的な展開をとらえて、「イースター島の例を基に、人類が生き延びるためには、今あるこの有限の資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を考えなければならない。」という筆者の主張を読み取るとともに、「地球の未来」についての自分なりの考えをまとめる。

### 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
筆者の主張の内容や文章の構成・展開などを踏まえ、しっかりとした目的意識をもって文章を読み、自分なりの考えをまとめようとしている。	「読みの課題」を基に筆者の主張の内容とその主張を支える根拠を的確に読み取るとともに、その課題を読み取っていくための観点到沿って作品のテーマに対する自分なりの考えをまとめている。	文章における段落の働きや相互関係、および文章の構成について、その内容を的確に理解し、それを積極的に活用して筆者の主張を読み取り、自分なりの考えをまとめることに生かしている。

### 指導計画（報告書参照）